

2017年6

No.184

下大和田・小山市

谷津田だより

ちば環境情報センター・
谷津田プレーランドプロジェクト

TEL&FAX : 043-223-7807
E-mail: hello@ceic.info
<http://www.ceic.info/>

昨年からYPP小山の活動に参加しているマークさん、陽子さんご夫妻。ニュージーランド出身のマークさんも田んぼにとっても興味をお持ちで、私たちの活動参加当初より「マイ田んぼをやりたい」と希望しておりました。皆と活動を共にして経験すること1年、今年から念願のマイ田んぼデビューです。車の運転途中でみかけた蛙（クロ）塗りをしよう見まねで行ない、広大な範囲の草取りを、ほぼ一人で完遂し、立派な田んぼとなりました。そんなマークさんが田んぼの魅力などについて語ります。（翻訳は陽子さん）



A Foreigner's Perspective Mark

Each newsletter I plan to write about an interesting thing about Japanese tanbo, for me a New Zealander. I am not an expert in tanbo, the environment or politics. But I hope an outsider's view will be interesting.

When working in the tanbo the first thing that I found surprising, were the large number of animals which have adapted or evolved to live within traditional tanbo. I have seen frogs, tadpoles, fish, dragon flies, snails, crabs, crayfish, lizards, herons and snakes. This was interesting because I did not normally associate farming with a home for animals, apart from the ones which are eaten or used, and a few pest species.

In New Zealand farms are generally not considered as part of the natural environment. This partly due to a difference in farming methods (it's mostly dairy farming and tanbo are not used). But it is also because farming has not had time to become part of the environment. New Zealand was first settled by the Maori people around 800 years ago, and large scale farming methods were not introduced by Europeans until around 170 years ago. In contrast Japan contains evidence of human inhabitants from 40,000 years ago and tanbo have been used for around 6,000 years (according to wikipedia.org).

In other countries there are examples where life has adapted to humans. Such as the London Underground Mosquito which evolved into a unique species especially suited to the subway. It thrived during WW2 with many people sheltering below ground. Also, a bacteria which eats human manufactured plastic (PET) has been recently discovered. However I am very happy to find that some animals have also changed to live in relative harmony with Japanese tanbo farming.

It reminded me of one of my favorite quotes, usually attributed to Charles Darwin -- *"It is not the strongest of the species that survives, nor the most intelligent that survives. It is the one that is most adaptable to change."* I think this has been applicable to the animals of the tanbo, but it is also very applicable to Japanese society as a whole. Thank you for reading, next time I plan to write about tanbo and politics.



マークさん作 蛙塗り

これから毎月谷津田だよりに、ニュージーランド人から見た日本の田んぼの興味深いことについて書いていこうと思います。私は田んぼや日本の環境・政治の専門家ではありませんが、外国人としての視点が皆さんにも興味深いものであればと期待しています。

田んぼで活動するようになって一番驚いたことは、非常に多くの生き物が伝統的な田んぼの環境に合わせて適応したり、進化したりして生息しているということです。今までに田んぼでカエル、オタマジャクシ、魚類、トンボ、タニシ、カニ、ザリガニ、トカゲ、サギそしてヘビを見かけました。野菜や家畜など農業産物や、害虫などの有害な生物以外で、農地が他の生き物（カエルやトンボなど）のすみかになると考えたことがなかったので、これはとても驚きでした。

ニュージーランドでは、一般的に農地は自然環境の一部とは考えられていません。これは農業の種類の違い（ニュージーランドでは酪農業が大部分を占め、田んぼはありません）によるものだと思います。さらに、ニュージーランドでは農業の歴史が浅く、農地が自然環境の一部となる時間が無かったことにもよります。約800年前、マオリと呼ばれる原住民がニュージーランドに定住しましたが、1860年代にヨーロッパ人が入植するまで農業は大規模には行われませんでした。それに対して日本では、4万年前から人類が定住し、6000年前から稲作が行われています（ウィキペディア参照）。

人間に適応した生物の例は、他国にもあります。例えば、地下鉄の環境に特化した珍しい蚊、ロンドン・アンダーグラウンド・モスキート（ロンドン地下鉄蚊）がいます。第二次大戦中、ロンドンの人々は空襲を避けるために地下鉄を防空壕として避難していましたが、そこでこの蚊が増殖していったそうです。最近では、人間が作り出したプラスチック（PET）を餌とするバクテリアも発見されています。しかしながら日本で、田んぼの環境とほど良く調和して生息する生き物を見つけられたことを、私はとても嬉しく思っています。

進化論を唱えたダーウィンの名言とされているものに、私の好きな言葉があります。「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである」この言葉は、田んぼに生きる生物に当てはまると思っています。同時に、日本の社会全体にもよく当てはまっていると思います。ここまでお読みくださり、どうもありがとうございました。次回は田んぼと政治について書こうと思います。

◆ 学校田んぼレポート ◆

今年はモグラが畦に穴を開けてしまい、田んぼの水が流出してしまうことがしばしば。水の抜けた田んぼは草が繁茂し、田起こしも1回では終わりませんでした。あすみ小の運動会の代休に親子5組が参加し、再び田起こししました。抜き取った草を休耕田に運ぶ作業を子どもたちにお願



いしたら、どこまで草を飛ばせるかの遠投競争となりました。その間、お母さん方に草を取り除いてもらい、あとは子どもたちが田んぼに入り走り回れば田起こし完了！早速入ってもらいましたが、最初は裸足で入ることに躊躇…でも慣れてくると気持ちいい～と田んぼの中を走り回る子も出てきました。作業をしていると、いろいろな虫が出てきます。サソリのようにシッポにとげがある虫や、背中に卵を背負ったカメムシのような虫…いままで見たことのない虫をじっと観察したりもしました。また、1ヶ所にかたまっている土を低くなった畦に向かって投げてもらったための作ると、見事、命中！的もポロポロ、子どもたちもドロンコ、久しぶりにキャッキョという子どもたちの笑い声が谷津田に響いていました。今年も学校田んぼが始まります。来月号にて田植えを終えた子どもたちの声をお届けします。





里山たんけんレポート

第 208 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2017年5月7日（日）曇

今日はいつもの千葉校の生物研究部生徒12名に加え、千葉西校のサイエンス同好会の生徒7名の参加があり総勢39名の大人数の観察会になりました。初参加の方も多く、下大和田の谷津がどんなところか理解の助けに山林内と谷津田をひと通り巡って観察することにしました。山林内では樹に巻き付いて登り、花を咲かせているフジやクサイチゴやキンランなど林床に咲く草などを見て回りました。谷津に出て、赤い口を見せ大声で鳴いているオオヨシキリやたくさん発生しはじめたニホンカワトンボを観察。このトンボはひらひらと優雅に飛びますから小さい子どもでも捕まえられます。トンボを痛めない持ち方なども勉強しました、クサノオウが満開です。ケシ科・キンポウゲ科は基本的に毒草であること、一方で薬にもなる事、クサノオウは鎮静や鎮痛の作用があるなど紹介がありました。イヌザクラが満開に近い木がありました。よく見るときれいです。たくさんの虫が訪れます。トゲヒゲトラカミキリやトラフコメツキが来ていました。道ばたに咲くハルシオンにも甲虫、ハチ、アブの仲間などたくさんの虫が集まっています。田んぼではニホンアカガエルのオタマジャクシが子ガエルになり始めていました。新緑とシュレーゲルアオガエルの合唱の中の観察会でした。

（参加 大人13名、高校生19名、小学生3名、幼児4名；報告：網代春男 写真：田中正彦）



第 205 回 下大和田 YPP「田起こし」

2017年5月6日（土）晴れ

コシヒカリ田の田起こしをしました。田の土を返すことにより、有機物をすき込み酸素を供給、分解を促進させます。また、雑草の種子は1～3cm くらいの所から発芽すると言われますが田の土を返すことにより発芽を抑制します。午前中で田起こしは終わり、午後からは苗代のトンネルカバーを外したり、古代米田の草取りをしました。

田起こし中の田んぼからイシガメの子ガメやサラサヤンマの羽化したばかりの個体に出会いました。ニホンアカガエルのオタマジャクシは子ガエルになり始めていました。田んぼがとても健全な状態にある証で嬉しくなりました。

（参加 大人21名、大学生1名、高校生1名、小学生6名、幼児5名、報告 網代春男、写真 田中正彦）

第 206 回 下大和田 YPP「田植え」

2017年5月14日（日）晴れ

雨で1日順延して実施しました。まず、苗代から苗を採って植える田んぼへ投げ入れます。それからいよいよ田植えです。根が浮き上がらないよう丁寧に植えるようにお手本が示されました。それぞれ家族毎に4列をスケールに合わせて植えていきました。予定変更で参加者がやや少なくなりましたがみんな一生懸命植えてコシヒカリを植え終える事が出来ました。残った古代米は20日に植えることにしました。

20日は臨時的作業日でしたが駆けつけてくださった方や初めて参加された方もあって、緑米、赤米、農林1号、黒米の4種の苗を全部植え終えることが出来ました。

（5月14日 参加 大人17名、小学生10名、幼児3名）

（5月20日 参加 大人16名、小学生5名、幼児3名）。



第 141 回、142 回 小山町 YPP「コシヒカリの田植え」

2017年5月21日（日）、28日（日）晴れ

両日ともコシヒカリの田植えをしましたが、恐るべき雑草の生命力で、田んぼは草だらけです。草取りに苦戦しました。また、日当たりの良い場所の田んぼの水が白っぽくにごり、その正体を調べている所です。今年は例年よりも気温が高い為、微生物が増えたのかもしれませんが。近くでウグイスが美しい声でさえずり和ませてくれています。まだ時間がかかりそうですが、着実に作業が進んでいます。

（参加 5月21日大人5名）

（参加 5月28日大人5名、小学生1名、報告 稲富理枝）



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 5月 5日 シオヤトンボが群れて飛び、アカガエルのおチビが飛びはね、鳥たちの声もいっぱい谷津でした（高山）。
5月16日 田んぼでハスの花が開いていました。（柳町）。
5月21日 フクロウの声を聴きました。桑の実がたわわになっていました。（松下）。

下大和田

- 5月 6日 田起こしの時イシガメの子が出現。繁殖が確認出来ました。田んぼからサラサヤンマが羽化しました。（網代）。
5月23日 ホトトギスの声が谷津に響いていました。今シーズン初です。（網代）。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト（YPP）のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼下大和田 YPP 第207回「田の草取り」

田植えをして一ヶ月近く経過しました。稲の生育を阻害する田んぼの中に生える草を取ります。

日時：2017年6月10日（土）9時45分～14時 *小雨決行

場所：千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集合：中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円）

持ち物：弁当、飲み物、長靴（田んぼが深いので長めがいい）、帽子、軍手、敷物

参加費：ちば環境情報センター会員および家族 100円、一般 300円、小学生未満無料

主催：ちば環境情報センター 共催：ちば・谷津田フォーラム

▼第210回 下大和田 7月の谷津田観察会とごみ拾い

夏の虫出現の頃です。ノシメトンボがたくさん出現、カブトムシもそろそろ見られる頃です。緑濃くした谷津を巡り増す。

日時：2017年7月2日（日）9時45分～12時 ☆小雨決行

場所：千葉市緑区下大和田谷津田（同上）

集合：中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（下大和田 YPP に同じ）

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴（長めの物）、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費：100円（小学生以上、資料代など）

主催：ちば環境情報センター・ちば・谷津田フォーラム

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時：2017年6月11日（日）、6月16日（金）いずれも9時45分～15時

場所：千葉市緑区下大和田谷津田（同上） **持ち物：**飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催：ちば環境情報センター

▼第143回、144回 小山町 YPP「緑米の田植え」

今季最後の田植え、緑米を植えます。

日時：2017年6月11日（日）、18日（日） 10:00～12:30、小雨決行

場所：千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物：飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。

参加費：100円（小学生以上、資料代など）

主催：ちば環境情報センター

編集後記 今月、各田んぼで展開された田起こしから田植えに至るまでの行程は、一年に亘る田んぼ作業の中で、最も人のエネルギーが田んぼに注がれる時期と言えるでしょう。エイッ！と鍬振り土を返し、草を抜き、田植えを迎えるのです。冒頭寄稿のマークさんは、当方から見ると恵まれた体を存分に駆使し、また、ある田は、鍬の変わりに子どもたちの爆発的な遊び力を投入され。。田んぼに棲む生物にとってはそれこそ天地のひっくり返る一大事！？ 多様なスタートを切った田んぼに、順に苗が植わりどのような稲に育っていくのか？とても、とても、楽しみです。（赤シャツ親父）